

ファミリンピック、修学旅行と慌ただしい中ですが

生徒の様子を見ると、少しずつ日々の学校生活にも慣れてきたようです。学校では、ファミリンピック実行委員、修学旅行実行委員が放課後に話し合いをし、そこで決まったことをもとに各クラスで出場競技や新幹線の座席等を決めています。

とても忙しい毎日ですが、4月の後半から各クラスで二者面談を始めました。ご家庭でも、『お子さんは将来どんな職業に就きたいのか』『進学する高校は自宅から近い方がよいのか』など、中学校卒業後の進路について、現段階でお子さんがどのように考えているのか話をしてみてください。

古河二中のホームページにて、配付した進路便りを閲覧できるようにしました。お子さんから手渡しで受け取っていただくことが一番ですが、全ての保護者の方にもれなく情報をお伝えできるようにという思いで行いました。また、受験に必要な情報は、県や各高校のホームページに記載されますので、こまめにご確認ください。

進路指導主事 千葉 隼

5月の主な学校予定と進路予定



月	火	水	木	金	土	日
						1
2 実テ個票 第1回進路希 望調査配付	3 憲法記念日	4 みどりの日	5 こどもの日	6 内科検診	7	8
9 実テ個票 第1回進路希 望調査回収日	10	11	12 ファミリン ピック予行 北辰受付	13	14 ファミリン ピック	15
16	17 修学旅行①	18 修学旅行②	19 修学旅行③	20 振替休業日	21	22
23	24	25	26	27 内科検診	28	29
30 テスト前休部 北辰締切	31 テスト前休部					

6月の進路予定

- 2日(木)・・・5教科中間テスト
- 6日(月)・・・第1回進路説明会案内配付
- 8日(水)・・・第2回実力テスト
- 15日(水)・・・実テ個票配付(27日回収)
- 19日(日)・・・第2回北辰テスト

受験校を決定する時の判断資料として

1 1月の三者面談時には受験する私立高校を、1月の三者面談時には受検する公立高校を最終決定します。その時の判断資料として『各種テスト』があります。①中学校で行う中間・期末テスト②中学校で行う月に1回の実力テスト③受験料を支払って中学校外で受けるテスト（北辰テスト等）です。

そこでの5教科の合計得点を参考に、三者面談で相談の上受験校を決定します。学校では、中間・期末・実力テストの受験前にテストの範囲表を配付し、それを見て、事前に十分復習をしてテストに挑むよう話をしています。テストの日に制服を着るのも受験に向けての取り組みです。

受験料を支払って受けるテストの詳細は、各テストを取り扱う会社のホームページをご確認ください。

第1回進路希望調査について

5月2日（月）に第1回進路希望調査用紙を配付しました。提出期限は5月9日（月）でした。期日を守って提出していただきありがとうございました。記載していただいた内容をもとに、各担任で二者面談を進め、お子さんの進路の方向性を一緒に探っていきたいと考えています。

今後も進路に関する大切な手紙などは、クラスカラーのクリアファイルに入れて持たせませす。提出する際も、クラスカラーのクリアファイルに入れて提出してください。このファイルは、一年間使用しますので、なくさないようご注意ください。お子さんの進路ファイルの色は下記の通りです。

1組・赤 2組・青 3組・黄 4組・ピンク 5組・紫 6組・緑

なぜ今、生活と勉強を頑張るべきなのか

学年職員は毎日、日々の生活と勉強を精一杯やるのが大切だと伝えていますが、それでもなお、一部ではありますが週末課題を出さなかったり授業中に寝ていたりする生徒がいるため、改めて、なぜ今生活と勉強を頑張るべきなのかについてお話します。

茨城県公立高校受検を例に挙げると、合否判断には「学力検査の得点合計」と「調査書の内容」の二つが使われます。※令和4年度茨城県教育委員会ホームページより

「学力検査の得点合計」とは、当日受検した5教科の合計点数です。県は、合計点数の順位がその高校の受検者総数の80%以内に入っていることを合格の一つの基準としています。日々の授業をしっかりと受け、家庭でも学習を頑張ることは、基礎学力の向上につながり、自分が志望する高校に入学できるかどうかにも大きく関わります。

「調査書の内容」とは、3年間の評定の合計だけでなく、出席状況、部活動での実績、実行委員や学級委員を行ってきたかなど、受検生がどんな生徒なのかを判断する資料となります。ぜひ、目先の「やりたくない」「面倒だ」という気持ちに流されるのではなく、やった分だけしっかり自分に返ってくるのだと先を見据えて生活して欲しいと考えています。

「学力検査の得点合計」と「調査書の内容」の両方が高い受検生から合格者が決められるため、今、生活と勉強の両方を頑張る必要があります。学年職員も日々サポートして参りますので、今後ともお子さんへのお声かけ等ご協力をお願いいたします。